

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

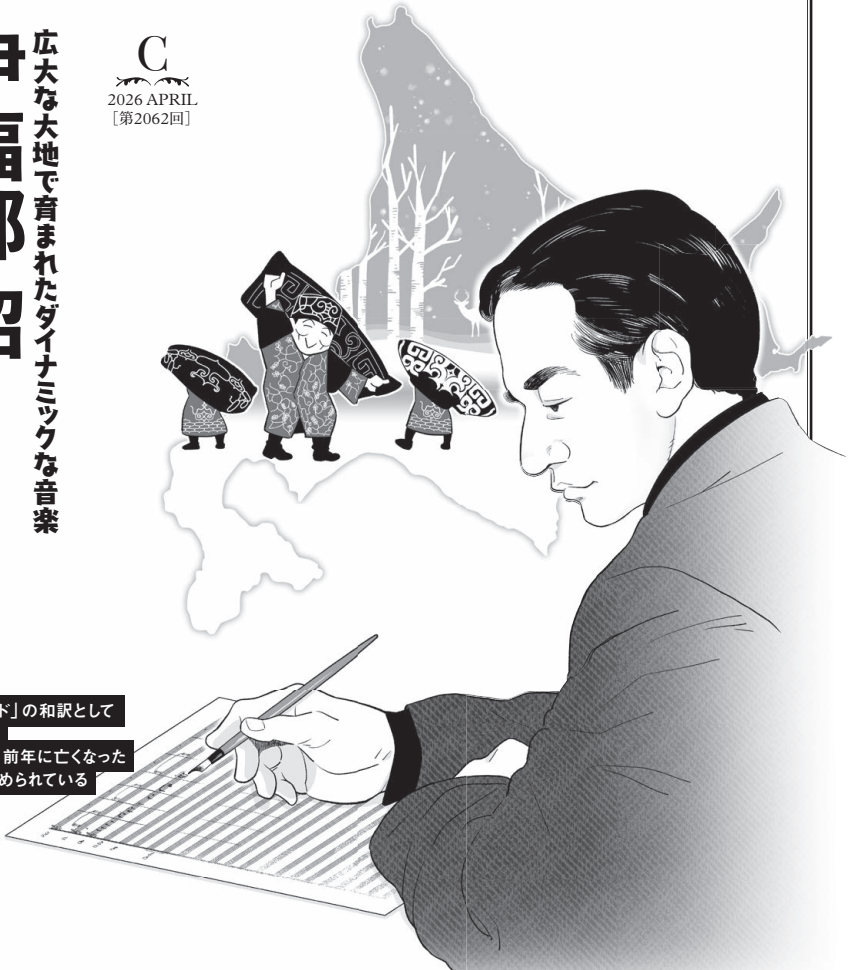
北海道に生まれた伊福部昭は、子どもの頃、帯広の北、音更^{おとふけ}で暮らしました。音更は先住民アイヌが住み、全国各地から開拓民が集まる村でした。伊福部少年は、アイヌの人たちの歌や踊り、開拓民たちが歌う民謡に親しく接しながら育ちます。やがて音楽に目覚め、10代の後半には独学で作曲を始めます。大学卒業後は、北海道庁の森林事務所などで勤務しながら作曲に励みました。《交響譚詩^{たんし}》は29歳のときの作品。大地の底から湧き上がってくるようなエネルギーと、民謡を思わせる哀愁を帯びた調べには、少年時代の伊福部の原体験がこだましています。

広大な大地で育まれたダイナミックな音楽

伊福部昭

Akira Irukube (1914-2006)

C
2026 APRIL
[第2062回]



「譚詩」は「バラード」の和訳として使われていた言葉。
《交響譚詩》には、前年に亡くなった兄を偲ぶ想いが込められている

©IKE